

「ニッセイ湯布院の森」 育樹活動(芽かき)

令和元年5月11日、“ニッセイの森“友の会(日本生命大分支社)・ニッセイ緑の財団主催により、由布市湯布院町塚原 由布鶴見岳国有林内の「ニッセイ湯布院の森」において、約80名が参加して育樹活動(同財団初の芽かきイベント)が行われました。

「ニッセイ湯布院の森」は、平成5年1月に分収造林契約を締結し、面積2.12ヘクタールにクヌギを約6千本植栽。今回は、一昨年の伐採後に萌芽し、大きいもので背丈程に成長した芽を、将来の目標林にするための芽かき作業が行われました。

はじめに、日本生命大分支社の溝井支社長から「ニッセイ緑の財団は、平成5年7月に設立され26年目となり、設立時の目標であった「ニッセイ100万本の植樹活動」を、平成14年に達成し、現在までに、全国46都道府県195箇所、136万本を植樹してきました。大分県内には、ここ湯布院と九重町、安心院町、別府市の4箇所で活動を展開しています。このような活動を更に発展するために、森林の恵みも感じながら楽しんでください。」と挨拶がありました。

つづいて、来賓として出席した、坂本大分森林管理署長から「国有林は国民の森林であり、ニッセイ湯布院の森は国民参加の森としてご活用いただいています。当署では、地球温暖化防止対策や、国民の生命財産を守るため後方に見える由布岳でも実施している治山事業をはじめ、様々な事業に取り組んでいます。本日は、国民の祝日“山の日”を意識した8月11日の3ヶ月前のイベントですので、森林の恵みを意識していただき、このような活動が益々発展されるよう祈念します。」と挨拶。

その後、大分森林管理署 井上主任森林整備官から、芽かき作業をする際の注意事項や安全作業について説明を行い、記念撮影の後、早速作業に入りました。

参加した親子は、はじめは慣れない様子でしたが、芽かき作業をしていると徐々になれてきて、さわやかな汗を流していました。

おわりに、西 常務理事事務局長から「ニッセイ森の財団の設立時から、100万本の植樹運動を掲げて取り組んできました。現在併行して進めている“樹木名プレート・学校の木のしおり”を全国の活動としてさらに広げたい」と挨拶がありました。



溝井 日本生命大分支社長 挨拶



坂本 大分森林管理署長 挨拶



作業上の注意事項説明
井上 主任森林整備官



親子で芽かき作業

“ニッセイ未来を育む森づくり”のテーマに実施



“ニッセイ湯布院の森” 新しい看板を設置



開会前に主催者、協力者、大分森林管理署による打ち合わせ



育樹活動のあと 昼食



西 常務理事事務局長(右)の閉会の挨拶

参加者全員で記念撮影



【 由布市湯布院町 由布鶴見岳国有林12林班内 】